取扱注意【出席者限り】

企業防災委員会【資料６】

東北フィールドスタディの実施報告について

2024 年 10 月 29 日

一般社団法人
中部経済連合会

一般社団法人
中部経済連合会
CENTRAL JAPAN ECONOMIC FEDERATION

開　催　概　要

- **テーマ**　：　東日本大震災の復興現場から学ぶ　防災・減災・リスクマネジメント
- **日　程**　：　2024年5月23日（木）～24日（金）1泊2日
- **訪問先**　：　宮城県石巻市・気仙沼市、岩手県陸前高田市
  （宿泊：キャピタルホテル1000 [陸前高田市]）
- **参加者**　：　22名（専門委員会社12社：18名、中経連事務局：4名）
- **内　容**　　研修Ⅰ：『小さな命が問う組織の意思決定のあり方』
  ～大川小学校跡地 語り部ガイド～

  研修Ⅱ：『海抜15mから想定外の意味を問う』
  ～民間が残す震災遺構での追体験～

  研修Ⅲ：『高田松原津波復興祈念公園のガイド見学』
  ～復興まちづくりの実情を知る～

  研修Ⅳ：『災害対応と復旧過程における企業の役割』
  ～地元企業より災害発生時の対応事例を学ぶ～

一般社団法人
中部経済連合会
CENTRAL JAPAN ECONOMIC FEDERATION

東日本大震災における被害状況 ①

○平成23年3月11日（金）14:46に三陸沖でマグニチュード9.0の地震が発生。東北地方を中心に地震、津波等により大規模な被害。
○日本の観測史上最大規模の地震、世界的にも1900年以降、4番目の規模の地震となる。

人的被害	
死者	15,894名
行方不明者	2,546名
負傷者	6,156名

建築物被害	
全壊	121,772戸
半壊	280,921戸
一部破損	726,509戸

（以上警察庁調べ平成29年12月８日時点）

被災者支援の状況	
全国の避難者	75,206名

（以上復興庁調べ平成30年1月16日時点）

東日本大震災における被害状況 ②

研修Ⅰ：大川小学校 ①

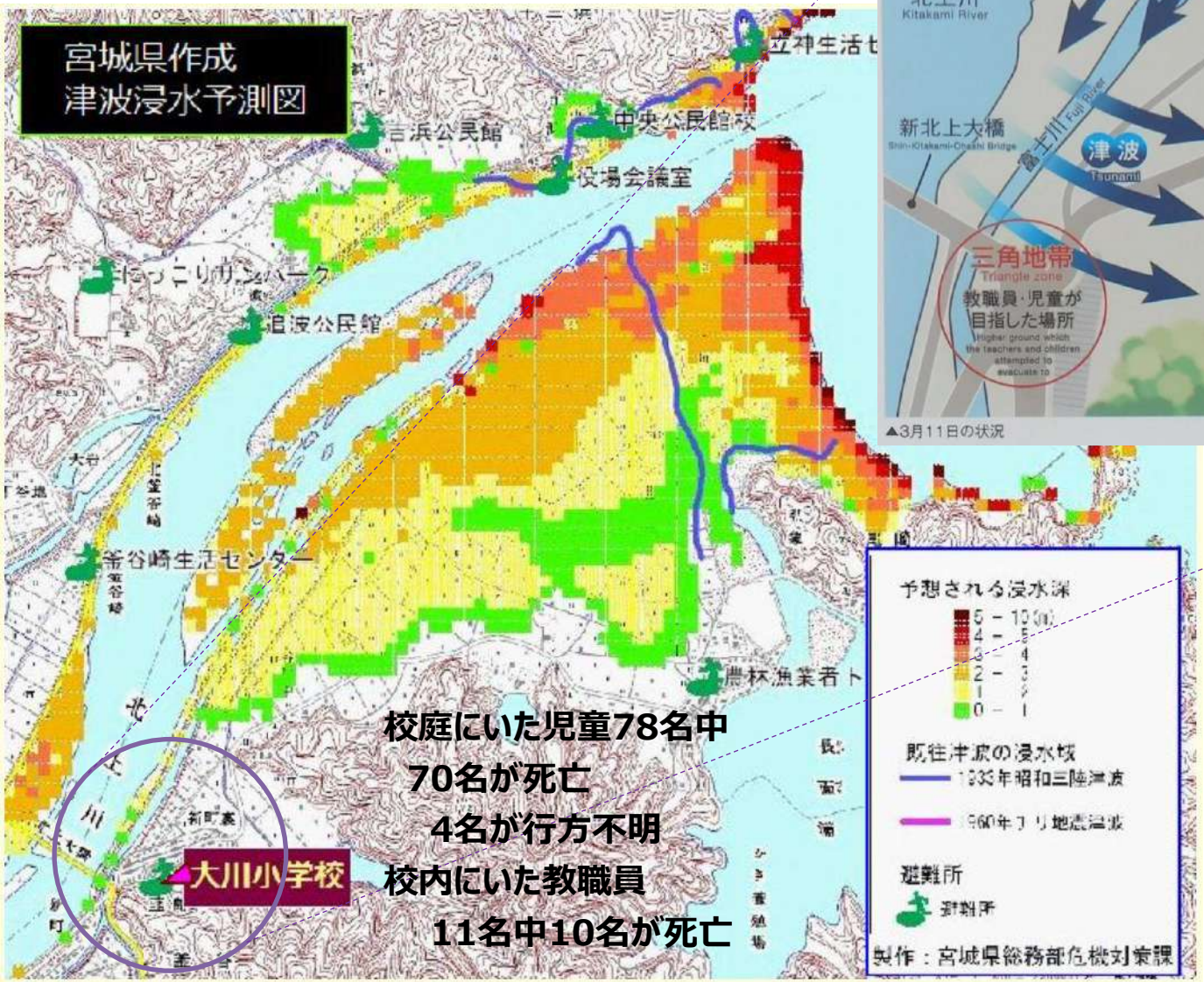
●『小さな命が問う意思決定の在り方』～大川小学校跡地 語り部ガイド～

大川伝承の会
佐藤 敏郎（さとう としろう）**さん**

宮城県石巻市生まれ。宮城教育大学卒業後、中学校の国語科教諭として宮城県内の中学校に勤務し、2015年3月退職。
東日本大震災当時は、宮城県女川第一中学校（現在の女川中学校）に勤務。
当時、大川小学校6年の次女を亡くす。
2013年末に「小さな命の意味を考える会」を立ち上げ、現在は全国の学校、地方自治体、企業、団体等で講演活動を行う。2015年からは、震災当時小学生だった高校生が若者とディスカッションを行う企画「あの日を語ろう、未来を語ろう」を各地で展開。2016年「16歳の語り部」（ポプラ社）を刊行、「平成29年度 児童福祉文化賞推薦作品」を受賞。
小さな命の意味を考える会代表、NPOカタリバ アドバイザーの他、ラジオのパーソナリティー（東北放送ラジオ、FM太白）としても活動中。文科省委託事業「いのちを語り継ぐ会」講師。

研修Ⅰ：大川小学校 ②

＊予測では、小学校は浸水エリアではなかった・・・。



校庭にいた児童78名中
70名が死亡
4名が行方不明
校内にいた教職員
11名中10名が死亡

＊水は、海の方からではなく橋の方からやってきた。

→ 沿岸部の松林が、津波で流されて、橋に引っ掛かり、水が溜まり、一気に小学校の方へ・・・。

研修Ⅰ：大川小学校 ③

● 学びと教訓

・**大川小学校は、『未来を拓く＊』場所。**

＊学校の校歌のタイトル。

※佐藤さんから頼まれたメッセージ

震災前からキャッチフレーズは、「未来を拓く」そこから必ず伝わり、必ず広がる。この場所から、未来をひらくためにも、あの日の出来事に蓋をしてはいけない。しっかり、向き合った先に未来はある。

★被災地と呼ばれる場所は、発災直前までは、**被災地ではなく、日常があった・・・。**

・『**自分ごと**』としてとらえる（登場人物に血を通わせる、大事な人を登場人物にする）

・大川小学校での体験、失敗、悲しみ等を『**キッカケ**』として、今後に生かす。

・避難訓練では、一回も失敗したことがなかった。本番を考えない、訓練のための訓練ではダメ。**訓練には本番がある**（ただ、それがいつかは、わからない）ことを考える。
→ 連絡事項は校内放送で実施（校内　放送が使えない想定はしていない…）
＊校内放送を使ってもよいが、停電だったらどうするのかという発想が必要。

研修Ⅰ：大川小学校 ④

・釜石の奇跡（生徒と教職員などが的確に避難し、ほとんどの方が助かった出来事）は、
津波3原則：①想定を信じるな、②率先避難（誰も逃げなくても逃げろ）、
③最善を尽くせ（最善を尽くさないと後悔をする）を実行。

＊大川小とは、**備えで大きな差**があった。釜石は、徹底的に事前対策と意識対策を行っており、当日、それを実行したことで助かった。

＊裏山から見た学校。奥には、溢れた川が見える。
この場所（高さ）には、津波は来なかった…。

＊当日、山形県の小学生と一緒に話を聞いた。
これが、大川小の子供たちと重なる瞬間が…。

研修Ⅰ：大川小学校 ⑤

● 参加者の声（18名：[2023年:15名]）

内容について：【18[14]】大変満足 【0[1]】やや満足 【0】普通 【0】やや不満 【0】大変不満

講師について：【18[15]】わかりやすい 【0】ややわかりやすい 【0】普通 【0】ややわかりにくい 【0】わかりにくい

・**経験された方の弁は非常に印象**に残る。娘さんを亡くされた**辛い思い出の現場で**、佐藤さんの「未来を拓く」思いで語って頂いた姿が印象に残った。

・**リモートなどでは分からない、リアル体験（現地での体験）**の大切さを改めて感じた。

・人命第一で**決めておくことの重要性**を感じた。また、決めておかないと動けないということ。

・**一人ひとりが自分事**として考えられるよう育成することが必要と感じた。

・訓練のための訓練になっていることが多い。

・緊急時はその場での判断では遅く、事前に行動基準（ルール）を決めておき、**体に叩き込んでおく重要性**を感じました。

・避難訓練の大切さや命を分ける行動につなげる教育の重要性と難しさを考えさせられました。

・**日常が、一瞬で「被災地になる」**ことを意識しておくことの重要さ、この意識が命を助けることになることを学びました。

研修Ⅱ：米沢商会ビル ①

●『海抜15mから想定外の意味を問う』～民間が残す震災遺構での追体験～

米沢商会代表取締役
米沢 祐一（よねざわ ゆういち）**さん**

梱包資材などを販売する「米沢商会」。
発災時は店を両親と弟に任せて、近くにある資材倉庫にいた。その後、状況確認のため店に戻り、店内の片づけに取り掛かった。資材倉庫の片付けにも行き、店に戻ると両親と弟は、先に市の指定避難場所である市民会館へ避難していた。
自身は、避難をする前に店内の点検を始めた。その矢先に津波が襲来。屋上の階段へ登り、せまる波から逃れるよう、1mほど出っ張った煙突に上がり、足元わずか10センチ下で増水がとまったことで、奇跡的に命をつなぐ。両親たちが避難した市民会館は完全に水没していた。
ビルは津波の直撃を受けるも奇跡的に残り、耐久性にも問題は無いと診断された。
浸水域の建物が壊されていくなか、自らの経験を教訓に変え継承するため、2016年に認定を受け、現在民間唯一の震災遺構として保存されている。

研修Ⅱ：米沢商会ビル ②

＊煙突の直ぐ下まで、津波が来ていた。このあたり一面が浸水して、海の様になった。

＊実際に煙突に登り、米沢さんと同じ状況を体験。

＊米沢さんが九死に一生を得た米沢商会ビル。現在、この建物の周りには、建物は全くない。

研修Ⅱ：米沢商会ビル ③

● 学びと教訓

・**【追体験】**米沢さんと当日の時間経過を建物内で追いながら、最終的に九死に一生を得た **煙突の上まで登る（我が身で感じる）体験** を行った。

・**日頃から災害対応の意識を持つこと**（何気ない過去の経験や知識が非常時に役に立つ）
※ 指定避難所であった市民会館（米沢商会ビル裏手）は、津波により水没した。

● 参加者の声（**18名**：[2023年:15名]）

内容について：【**14**[13]】大変満足 【**3**[1]】やや満足 【**1**[1]】普通 【0】やや不満 【0】大変不満

講師について：【**16**[14]】わかりやすい 【**2**[1]】ややわかりやすい 【0】普通 【0】ややわかりにくい 【0】わかりにくい

・**屋上の煙突最上部**へ行かせていただけるのは**本研修ならでは**だと感謝します。

・屋上で夜を明かす際、ゴミ袋で保温をしたり、ヘリにSOSをアピールしたり、経験をお聞きできたおかげで、**自分ももしもの時に思い出せる**かもと思い、貴重なお話が聞けて良かった。

・津波経験者もいる中、発災時、**人の動きはかなり緩慢**であったことが本人の口から聞けたことが良かった。**津波がくると思わず**「避難しろ」と言わない実態（防災無線にすら気づかない）。

・話の内容は面白く、被災現場と共に内容は良く理解出来たが、何を学べば良いのか分からなかった（ ⇒ 我が身で感じてもらうこと。また、避難所が必ずしも安全な場所ではないこと）。

研修Ⅲ：戸羽 前陸前高田市長 ①

● **『高田松原津波復興祈念公園のガイド見学』**
～復興まちづくりの実情を知る～

オフィスTOBA　代表取締役
前陸前高田市長　戸羽 太（とば ふとし）**さん**

神奈川県に生まれ、民間勤務を経て、父の実家である陸前高田市へ移住。
市議会議員などを経て震災の１ヶ月前に初当選し、市長に就任。
その１か月後に東日本大震災に遭遇し、妻を亡くす。
その後、県内一被害の大きかった当市の復興に邁進。
民間経験者としての発想と人脈を生かし、陸前高田市と外部と多くのつながりをつくり、「交流人口の拡大」と「ノーマライゼーションという言葉のいらない街づくり」を目指し、3期12年そのリーダーシップを発揮した。
2023年2月をもって退任、同年4月より個人事務所を設立し、講演活動を続ける。

※ 2023年は、座学による講演を実施。本年は趣向を変えて、遺構を巡りながら話を聞いた。
※ また、2023年度 第1回 企業防災委員会「第1部 講演会」で、講演を実施。

研修Ⅲ：戸羽 前陸前高田市長 ②

● 学びと教訓

・「防災」という言葉は使わない。自然災害は、なかなか防ぐことはできない。そのため、「禍」を減らす、**「減災」**にしっかり取り組む。準備を行い、可能な限りリスクを減らす。

・減災は、**『後悔を減らすこと』**。「○○しておけば良かった」ということを減らすこと。それには、こういう事態になると困るという想像（イメージ）することが重要。

・家族や大切な人とは、**災害時の避難や連絡の取り方等を事前に決めておく**こと！

● 参加者の声（18名：[2023年:15名]）

内容について：【**13**[13]】大変満足 【**5**[2]】やや満足 【0】普通 【0】やや不満 【0】大変不満

講師について：【**16**[14]】わかりやすい 【**2**[1]】ややわかりやすい 【0】普通 【0】ややわかりにくい 【0】わかりにくい

・被災状況の説明受けながら公園を歩いたので、**震災や復興工事のイメージができ**て良かった。
・**現地でしか、対面でしか聞けないこと、感じられないことも多く**、大変良い研修でした。
・「後悔を減らすこと、想像力で準備しておくこと」という言葉が印象に残っています。
・元市長から復旧・復興に向けた様々な**苦労話をお聞きでき貴重な機会**でした。
・当時の復興に関する国との対応や具体的な取り組み（堤防の高さの設定や町のかさ上げ造成）など非常に説明もわかりやすく伺うことができました。

研修Ⅳ：阿部長商店 ①

● **『災害対応と復旧過程における企業の役割』**
～地元企業より災害発生時の対応事例を学ぶ～

株式会社阿部長商店　南三陸ホテル観洋 副支配人 阿部 裕樹さん はじめ他2名

1961年創業、1968年法人設立。生鮮出荷や加工品製造などの水産事業と、ホテルや観光施設の経営といった観光事業の2大柱をはじめ、物販事業、飲食事業、不動産事業を展開している。観光事業部門と水産事業部門の有機的なネットワークによる、安定した資源調達力で地産地消を推進し、三陸の食文化を伝える取り組みを行っている。

○ **気仙沼市復興祈念公園、命のらせん階段 見学**（橋本さん）

○ **気仙沼市の水産加工業業者の現状報告**（武田さん）
震災発災時の工場の様子や対応をお話いただく。

○ **3.11からの記憶～南三陸ホテル観洋の記録～**（阿部さん）
東日本大震災の発生当日、ホテルにはお客さまとスタッフ、周辺住民の合計350名が滞在。震災直後の対応から、二次避難所として600名の地元の方とコミュニティを作った取り組みを振り返りお話いただく。

＊命のらせん階段

研修Ⅳ：阿部長商店 ②

● 学びと教訓

・風化させない、知ってもらうこと、共感してもらうこと、そして『**自分ごと**』としてもらうこと。
＊1,000人に知ってもらい、100人に共感してもらい、10人が自分ごととして捉えて、命が助かる。

・自分の所だけではなく、**地域全体で復興していく大切さ**。その場での**最善を尽くす**。

● 参加者の声（**18名**：[2023年は実施なし]）

内容について：【7】大変満足 【8】やや満足 【2】普通 【1】やや不満 【0】大変不満

講師について：【7】わかりやすい 【8】ややわかりやすい 【2】普通 【1】ややわかりにくい 【0】わかりにくい

・その場その場で必要な事を考え、課題解決（PDCA）をしていく**リーダーの責任感は重要**。
・ホテルとしてではなく地域に根差した企業として、**地域の住民に対して何ができるかを考え、次々とアイデアを行動に移す**女将のリーダーシップが素晴らしいと感じた。
・災害時におけるホテルの運用について、何があり、どう対応されたのか大変勉強になった。
・**罹災時に企業がどう行動すべきか**について考えさせられる研修でした。
・就業時の避難には従業員に勝手な行動をとらせていけない、全従業員の把握が大事との言葉が印象的だった。
・命のらせん階段は、個人宅屋上を避難所として使い、地域の為にという視点に驚いた。

フィールドスタディ全体 ①

● フィールドスタディ全体について参加者の声（18名：[2023年:15名]）

◆ 満足度

【17[15]】大変満足 【1】やや満足 【0】普通 【0】やや不満 【0】大変不満

◆ 「自分ごと」として捉える機会（＊今回新設の質問）

【18】とても良い機会となった 【0】ややなった 【0】あまりならなかった 【0】ならなかった

◆ 研修の中で一番良かった研修

【12[9]】研修Ⅰ（大川小学校） 【3[1]】研修Ⅱ（米沢商会ビル） 【1[5]】研修Ⅲ（戸羽前市長） 【2】研修Ⅳ（阿部長商店）

◆ 次回、開催される場合の参加意向（＊場所は別箇所で開催の場合）

【12[12]】是非参加したい 【6[3]】参加を検討する 【0】あまり参加したくない 【0】参加しない

◆ 研修項目（量）

【0】多すぎる 【1】少し多め 【17[14]】妥当 【0[1]】少し少なめ 【0】少ない

◆ 行程の過密度（スピード）

【0】忙しい 【2[2]】やや忙しい 【15[13]】普通 【0】やや間が空いていた 【0】間が空いていた

◆ 参加費用感

【0】高すぎる 【4[1]】少し高め 【13[12]】妥当 【0[2]】少し安め 【1】安い

フィールドスタディ全体 ②

・南海トラフ大地震に備え、**自分事として「備え」をしっかり検討**したい。

・今まで漠然と取り組んでいた訓練や対策に対し、**何のために訓練をするのか、避難に必要なことは何か等の意味や意義を少しでも考え**、社内の防災活動の充実に繋げたい。

・会社の中にマニュアルや資料が数ある中で、認知されていないものが多くあると思ったので、存在を知らしめることと内容をかいつまんで伝える機会が必要だと思った。

・学ぶことが多い、このフィールドスタディの取り組みは**ぜひ続けて欲しい**。参加者側の交流も有益で人脈を増やすことができた。**他の人にも推薦したい。会社内で参加させたい人がいる。**

・現地現物で勉強させてもらい、**リアルな体験を言葉で聞くことに意味がある**と改めて感じた。資料を読んだりするだけでは限界があると思った。

●まとめ

・ 実際に、災害が起きた現場を「目で見て」、被災された方の「生の声を聴く」ことで、リアルに感じ、**『自分ごと』として考える「キッカケ」を得る** 有意義な機会となった。

・ 減災を進めていく上では、**1人でも多くの方にこのような体験の機会を設けることで、個人ひいては組織としての減災意識や対応力の向上**につなげていきたい。

・ 次年度以降もこのような機会を設けられるよう調整したい。